



本年度実施した、全国学力・学習状況調査および広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果が出ました。
市教育委員会は、これらの調査で明らかになった児童・生徒の課題を分析し、児童・生徒一人一人の学力向上を目指す取り組みを進めていきます。

文部科学省が行う、全国学力・学習状況調査が4月24日に実施され、小学校6年生と中学校3年生が参加しました。

表1

| 教科 | 庄原市 | 広島県 | 全国 |
|-----|------|------|------|
| 国語A | 67.0 | 65.8 | 62.7 |
| 国語B | 47.9 | 52.7 | 49.4 |
| 算数A | 77.6 | 79.2 | 77.2 |
| 算数B | 58.9 | 61.3 | 58.4 |

※Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」を活用する問題
※数値は平均正答率(%)

広島県教育委員会が行う、「基礎・基本」定着状況調査が6月11日に実施され、小学校5年生と中学校2年生が参加しました。本年度から理科が加わり、活用の力を問うタイプIIの問題が追加されました。

表2

| 教科 | 庄原市 | 広島県 |
|----|-------|------|
| 国語 | 教科全体 | 73.0 |
| | タイプI | 80.1 |
| | タイプII | 41.3 |
| 算数 | 教科全体 | 70.0 |
| | タイプI | 70.9 |
| | タイプII | 65.7 |
| 理科 | 教科全体 | 63.9 |
| | タイプI | 66.3 |
| | タイプII | 59.8 |

※タイプIは基礎的・基本的な内容、タイプIIは知識・技能を活用する内容
※数値は平均通過率(%)

庄原市の子どもの学力は？

学力調査結果から今後の取り組みへ

教育指導課指導係
☎0824-73-1184

全国学力・学習状況調査の結果

「基礎・基本」定着状況調査の結果

小・中ともに課題は活用力

表1の調査では、全国平均正答率に概ね近い数値となりましたが、中学校数学に課題があります。
また、活用する力を必要とするB問題の平均正答率が、A問題に比べて低くなっており、習得した基礎的・基本的な内容を活用して考えたり、表現したりすることが不十分であることを示

しています。

表2の調査では、全教科とも教科全体の通過率およびタイプIの通過率は県平均通過率を上回りました。基礎的・基本的な学習内容は、概ね定着していると考えられますが、全国学力・学習状況調査と同様に、活用する力を必要とするタイプIIの通過率がタイプIに比べて低くなっており、課題が見られます。

地域への愛着度が向上 テレビなどの視聴時間が低減

表3では、自分で勉強の計画を立てたり、家庭で1日1時間以上勉強したりしている児童・生徒の割合は県平均を上回っており、家庭学習の習慣が概ね定着していることが分かります。しかし、中学校2年生の予習については改善が必要な状況であるといえます。「地域や子ども会などの行事に参加している」「自分の住んでいる地域のことを好きです」と答えた児童・生徒の割合も県平均を上回っており、子どもたちが地域の多くの人と出会い、豊かな自然や伝統的な行事にふれるなど、さまざまな経験を重ねて健やかに育っていることを表しています。

○広島県「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査における調査結果(抜粋)
「よくあてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に回答している割合(%) 表3

| 設問 | 小学校5年生 | | 中学校2年生 | |
|----------------------|--------|------|--------|------|
| | 庄原市 | 広島県 | 庄原市 | 広島県 |
| 自分で勉強の計画を立てている | 66.1 | 62.1 | 54.2 | 50.5 |
| 学校の授業の予習をするようにしている | 61.1 | 53.2 | 29.7 | 36.0 |
| 学校の授業の復習をするようにしている | 75.0 | 61.9 | 62.6 | 52.6 |
| 家庭で1日に1時間以上勉強している | 平日 | 57.1 | 49.3 | 48.7 |
| | 休日 | 48.9 | 38.4 | 59.4 |
| 地域や子ども会などの行事に参加している | 85.7 | 67.3 | 62.9 | 45.2 |
| 自分の住んでいる地域のことを好きです | 90.4 | 86.6 | 76.6 | 74.1 |
| テレビやゲームを1日に3時間以上見ている | 平日 | 26.4 | 28.3 | 30.2 |
| | 休日 | 46.4 | 64.7 | 56.3 |
| 1カ月に、6冊以上読書をしている | 50.0 | 40.7 | 17.5 | 13.5 |

また、数年来の課題であった、テレビやゲームを1日に3時間以上見る児童・生徒の割合が、平日で県平均を下回りました。市内全ての小・中学校では期間を決めて「ノーテレビ・ノー



数学の授業で考えを説明している場面



算数で自分の考えを説明している場面



ペアで意見交流し、ノートにメモしている場面

一人一人の学力向上を目指す 研修会で指導改善のポイントを学ぶ

児童生徒の学力の定着状況を把握・分析し、各学校の取り組みを交流・協議して指導改善に生かすことを目的に、9月24日、各校の教務主任を対象に、学力向上検討委員会第1回全体研修会を開催しました。

ゲーム」に取り組んでおり、そのことがテレビやゲームの視聴時間の低減、家庭学習の時間や読書量の増加に影響していると考えられます。しかしながら、休日のテレビやゲームの視聴時間は依然として県平均よりも高くなっており、さらなる改善が必要です。それぞれの家庭で、子どもと一緒に「ノーテレビ・ノーゲーム」に取り組み、特に休日は家族でのふれあいや読書などの時間を増やしてほしいと思います。

今回は学力向上に向けた取り組みの充実のため、広島県北部教育事務所の指導主事を招き、広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果分析や調査結果に基づく指導改善ポイントを演習も交えながら学びました。
その後の協議・演習では、各校の改善計画について交流し、「誰が」「何を」「いつまでに」行うのかを明確にした組織的な取り組みについて考え、今後の取組計画を作成しました。協議を進める中で、他校の事例を参考に改善したり、小・中学校が連携して課題分析を行い、同じ視点で課題解決を図る取り組みを進めたりするといった具体的なアイデアが多く出されていました。
市全体の教育力の向上に向けて、学校・家庭・地域が児童・生徒の課題を共有し、それぞれの特性と役割を大切にし、ながら連携を深め、改善に向けた意図的な取り組みを進めていきます。